

## 令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」パネルディスカッションにおける主な意見

本資料は、令和2年2月18日に開催した令和元年度「全国家庭教育支援研究協議会」におけるパネルディスカッション（※）で出された主な意見を文部科学省においてとりまとめたものです。より詳細の内容は、議事概要を御参照ください。

### ※パネルディスカッション

それぞれの地域の実情に応じた“アウトリーチ型支援”の普及・定着に向けて、「なぜ今アウトリーチ？」「何をどうやるの？」「どんなことに気をつけるの？」の視点から、関係自治体からの事例報告の内容を踏まえ、協議を行いました。

### 1. なぜ今アウトリーチ？

- ・講座や相談会を開催しても、課題を抱えている、本当に来てほしい保護者が来てくれない。
- ・今の保護者には、安心して相談できる仲間が少なくなっている。SNS等で繋がっているように見えるが、身近には相談できる人がおらず、実際には孤立している。
- ・経済的に余裕のない家庭は課題も複雑。そのような保護者にはアウトリーチ型支援が有効。
- ・学校では子供への対応が中心になるが、保護者に寄り添う支援をすることで、子供の課題も解決するのではないか。
- ・自治会に入らない家庭は市区町村の広報誌などが届きづらい。アウトリーチ型支援なら、そのような家庭にも均一に情報を届けることができる。
- ・アウトリーチ型支援の意義は“つながり作り”。
- ・直接的なつながりが希薄化している中で、アウトリーチ型支援は直接的な寄り添い支援ができる。

### 2. 何をどうやるの？

(都道府県)

- ・いくつかの市区町村でモデル事業を実施し、その成果を他の市区町村と共有。モデル事業を実施する市区町村には、書類の作り方から会議の進め方など、様々な面でバックアップ。
- ・企業と連携した支援を実施し、講座のプログラムやプレゼン資料をWebサイトで広く共有。
- ・地域とのつながりを重視し、コミュニティ・スクールと連携した家庭教育支援を推進。保護者を支援することで、子供の困り感が解消し、学校もよくなっていく。学校経営の重要な柱。

(市区町村)

- ・“できるところから、できる人に支援を届けよう”をモットーに活動。家庭訪問でつながりづらかった保護者も、シュークリームを食べながら子育て相談をする会でつながることができた。
- ・教育部局に福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーが在籍するのは心強い。
- ・教育部局と福祉部局の連携が重要。例えば、生活保護の担当者が家庭を訪問した際に、子供に何かあれば教育部局に連絡してもらおうなど、さまざまな視点から家庭への支援に繋がるようにしている。
- ・アウトリーチ型支援を行う上では、課題を抱える保護者の掘りおこしが大切。
- ・保護者へのエンパワメントが重要。直接保護者と会話をすることで、話を聞くだけ、愚痴を聞くだけでも、保護者の子育てに対するやる気が出てくる。
- ・単に家庭訪問をするだけでは話が続かないので、会話のツールとして情報誌を作成。今では学校に写真を提供してもらおうなど協力してもらい、情報誌のおかげで学校とも仲良くなっている。
- ・まずやってみることが大切。うまくいかなければ、やり方を変えようという気持ちで取り組んでいる。

### 3. どんなことに気をつけるの？

- ・予算は、今ある範囲でできることから始め、徐々に拡大していく。予算がないことを出来ない理由にしない。長期的な視点で。
- ・予算は行政担当者が熱意を持って財政部局を説得する、補助金のアンテナを広く張る等を心掛ける。
- ・支援員が疲れ切ったり、モチベーションが下がったりしないよう、ケアしていくことが重要。
- ・支援員は専門性よりも傾聴スキルのある地域住民の方が保護者に寄り添うことができる。
- ・支援員がすべて解決するのではなく、しかるべき機関へつなぐことが重要。
- ・家庭訪問だけがアウトリーチ型支援ではない。出前講座や企業訪問など、様々な手法がある。
- ・教育部局、福祉部局の協働で行うことで、個人情報壁を乗り越える。
- ・学校現場や福祉部局に、家庭教育支援の目的を理解してくれる人を増やしていくことも重要。

#### 【参 考】

(コーディネーター)

水野 達朗氏 ((一社) 家庭教育支援センターペアレンツキャンプ 代表理事)

(アドバイザー)

松田 恵示氏 (国立大学法人東京学芸大学 副学長)

(パネリスト)

松代 由美氏 (茨城県教育庁 総務企画部 生涯学習課 就学前教育・家庭教育推進室 社会教育主事)

児玉 勉氏 (山口県教育庁 社会教育・文化財課 主査)

川本 美由紀氏 (岩国市家庭教育支援チーム「平田の子どもたち元気応援チーム」

「とどける」元気応援サポーター)

木村 圭氏 (釧路市教育委員会事務局 学校教育部 教育支援課 専門員)

長谷川 慶泰氏 (泉大津市教育委員会事務局 教育部 指導課 指導主事)

上田 さとみ氏 (湯浅町教育委員会事務局 スクールソーシャルワーカー 兼

湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあぐる」 リーダー)